

# 消費生活ほっと通信



ペン君

## ◆◆コンテンツ◆◆

・「衣料品ロス」って知っている？

～第2回消費生活講座の「大量廃棄社会」の紹介～



フクロウ博士

この冬は、「寒気」と「換気」・・・「換気」のためには、いつもの冬とは違い、部屋の中でも少し厚着が必要になるね。そこで、今月は、私たちの身体を守ってくれる「衣服」について特集するよ。

ちょうど、このテーマで12月11日に消費生活講座「大量廃棄社会」が開催されたんだ。

講師の仲村和代先生（朝日新聞社記者）のお話しは、記者としての徹底的なリポートに基づいていて、「目



から鱗」で勉強になったよ。今日は、この講演会の内容を紹介しながら、「衣料品ロスのこと」考えようね！それでは、ペン君、よろしくね！

はい！テーマはこれだよ。

## 「衣料品ロス」って知っている？

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」と言うって、秋号で話したよね。じゃあ「衣料品ロス」って、ペン君は知ってるかい？



僕、聞いたことないよ・・・博士、教えてね

一度も客に手に渡ることなく、新品のまま捨てられている服のことを「衣料品ロス」って言うんだ。より多くの服を売るために過剰に作って在庫となってしまうたり、業者同士の取引の過程で必要がなくなってしまうたり、様々な事情から衣料品ロスは生まれているんだよ。



じゃあ、次のクイズだよ。

1年間にどれくらい新品の服が捨てられていると思う？3択でいくよ。

- ① 3億枚      ② 5億枚      ③ 10億枚

衣料品ロス！



う〜ん。当てずっぽうだけど、③10億枚かな？

大正解だよ！ 答えは、③10億枚 と言われているんだ。すごいだろ



はい、質問！何故、売れないのに、たくさん作るの？

バブル時代を象徴する「見栄消費（みえしょうひ）」はすっかり終わったね。阪神大震災や東日本大震災も経験したし、以前のように高い服が売れなくなった。そして同時に、コストを抑えたファストファッションが台頭してきたよね。コストを抑えるということは、人件費の安い国に服に発注することなんじゃ。余るのがわかっていてコストの安い国に大量に発注しているわけじゃ。



はい、質問！大量じゃなくて、少量にならないの？

洋服を作るという縫製作業は、たくさんの工程があって、高い技術力が必要なんじゃ。日本の職人さんはこの高い技術を持っているよね。でも、コストを下げるために、縫製作業を海外で行うと、その技術はないよね。だから、工程をとにかく細分化して作業を単純化するんだ。そうすれば、入ったばかりの従業員でもすぐに作業ができるよね。例えば、袖口にボタンを縫う工程を受け持つ女性は、1日中その工程を担当する。そうすると、当然、たくさん作ることになるよね。そうしないと賃金もらえないからね。



難しいけど、ちょっとわかったよ。

実は、「もったいない」だけが問題ではないんだ。こういった工場で**犠牲を強いられる人たちがいる**っていうこと。この写真見たことあるかな？

**Bangladeshのアパレル工場の崩壊事故**なんじゃが・・・。

この崩壊事故で**千人を超える犠牲者が出た**んだ。

多くの女性たちが、月給4～5千円で長時間労働していて、仕事の選択肢はなく、シングルマザーも多いんだ。

日本国内でも、「技能実習生」の労働環境が悪いと言われているよね。

**アパレル業界は構造的に女性の低賃金労働で成り立っている**ことは、昔も今も変わらないかもしれないね。



写真は事故現場  
(2013年ロイター)  
朝日新聞デジタル版より

<出典>仲村和代・藤田さつき共著「大量廃棄社会」(光文社新書)



「**衣料品ロス**」の裏に「**労働環境問題**」があるなんて、初めて知ったよ。でも、「なんでこの服、こんなに安いんだろう？」って思ったことはあるよ。こんな背景があったんだね。

そう、その「商品価格」には、それを作った生産者の賃金が含まれているんだけど、**生産者の実態がわかるってこと、大事だね**。今、野菜などは「生産者から直接購入」する人が増えているよね。**衣料品を選ぶときも、生産者を意識するようになると、「適正な価格」がわかってくる**かもしれないね。さて、「衣料品ロス」がわかってきたところで、「**私たちにできること**」を考えてみたいね。



難しいなあ。僕、まだ、適正な価格で買うことは出来ないけど、まだ**着られる洋服、大事に着たい**な。そして**少しでも廃棄を減らしたい**って思ったよ。

いいことに気づいたね。「自分にできること」を、「**意識して続けること**」が大事だね。それと、**友達に「衣料品ロス」のこと話してみ**てね。伝えることで皆に**気づいてもらえるから**・・・。今日のペン君と同じだよ。





最後は、僕から講演内容の基になった本、「大量廃棄社会」の紹介だよ。

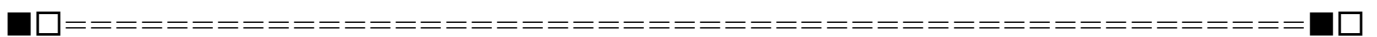
仲村和代氏は、2002年朝日新聞社に入社。長崎総局、西部報道センターを経て2010年から東京本社社会部。子育て、労働、メディアなど幅広い取材に関わる。その後、「SDGsプロジェクト」の企画に参加し、その取材を元に、2019年、共著「大量廃棄社会」（光文社新書）を出版。「大量廃棄社会」の副題には、「アパレルとコンビニの不都合な事実」とあり、「衣料品ロス」と「食品ロス」を独自の視点で徹底リポートしている。



今回の講演は、このリポートとその後の社会の動きも含めてお話ししていただきました。

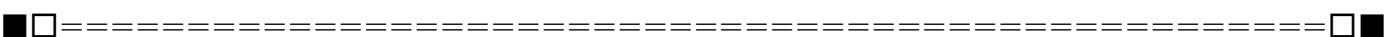
### <消費生活講座の感想>

- ・食品ロスの問題がきっかけで参加させていただきましたが、「消費問題の裏に労働問題がある」といった視点がとてもよく、勉強になり、考えさせていただくきっかけになりました。
- ・「適正価格で商品を買う」に納得しました。今後に生かします。



### SDGs 目標「12 つくる責任 つかう責任」「1 貧困をなくそう」「10 人や国の不平等をなくそう」

SDGsの目標『12 つくる責任つかう責任』は、生産と消費のパターンを変えることによって、天然資源や有害資源などの利用を減らし、廃棄物や汚染物質の排出を最小限に抑えることを目標にしています。そこで注目されているのが、「エシカル消費」という考え方です。エシカルファッションという言葉もよく耳にします。「環境を破壊しない」「労働者から搾取しない」といった考え方に配慮し、よりよい生産現場で生産された商品を選ぶことで、結果として目標『1 貧困をなくそう』、目標『10 人や国の不平等をなくそう』に近づくことができます。

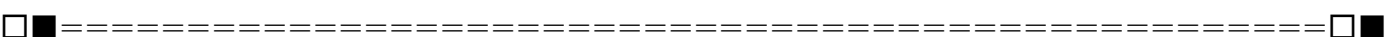


### ★困ったときは、すぐに相談！

豊島区在住・在勤・在学の方の商品の購入や契約のトラブルなど、消費生活に関する相談は豊島区消費生活センターで受け付けています。

【相談専用電話】03-3984-5515

(午前9時30分から午後4時土・日・祝日・年末年始を除く)



発行・問い合わせ先：豊島区消費生活センターTEL：03-4566-2416